



三番瀬 ガイドブック

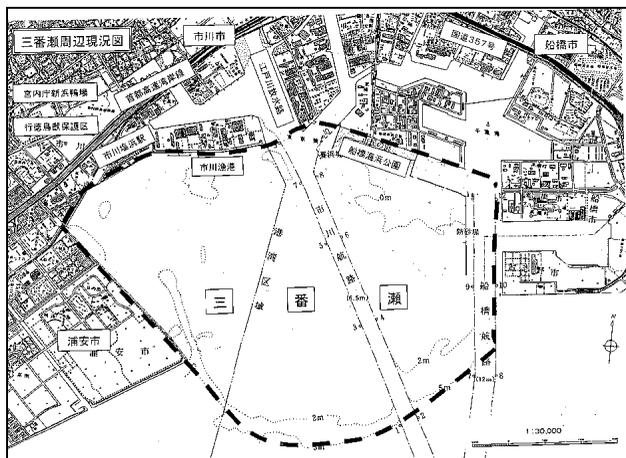


1. 三番瀬(さんばんぜ)とは

どこにあるの
三番瀬？

三番瀬再生計画検討会議において、右の点線で囲まれた東京湾の最奥部の干潟・浅海域(水深5m未満)約1600ヘクタールを「三番瀬」ということとしました。

(出典 千葉県)



名前の由来

三番瀬は江戸湾の漁場である船橋浦の一部で、この海域の最沖部の瀬を「字三番瀬」と呼んでいました。

右の図は、大正時代(約80年前)のもので、他にも「字西浦」「字高瀬」がありましたが、今では埋め立てられ、地名が残っていません。

江戸時代の古文書に、「二番瀬」「三番瀬」の文字がありましたが、「二番瀬」の位置や「一番瀬」があったかどうかは不明です。



変化した三番瀬

昭和20年代から埋め立てが始まり、干潟がなくなってきました。また、昔の三番瀬は干潟が多くを占めていましたが、昭和30年代からの地盤沈下により約1m沈下し、干潮時でも海の中の部分(浅海域)が多くなりました。

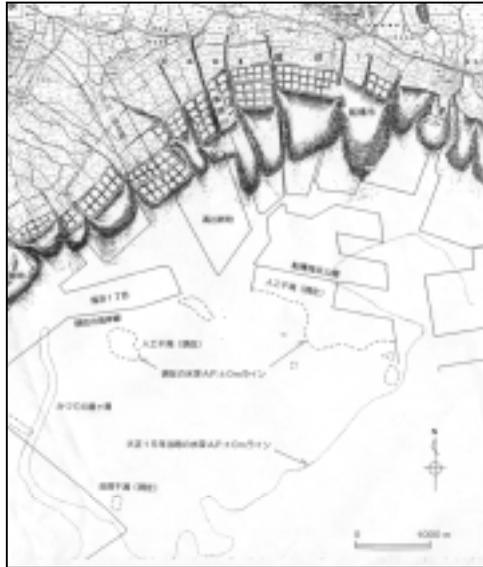
なお、船橋海浜公園潮干狩り場は、船橋分岐航路を埋め戻した人工干潟です。

2.干潟とそのはたらき

日本の海岸

海と陸が出会うところが渚(なぎさ)・海辺です。日本の海岸線の多くは人の手により改造され、自然の海岸は少なくなってきました。

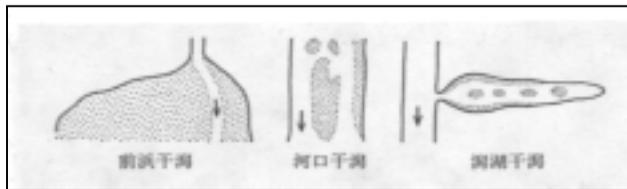
自然海岸は、砂浜(九十九里海岸)・干潟(三番瀬・盤洲干潟)・磯(鴨川)・さんご礁(沖縄)・マングローブ林などの種類があり、内湾に発達する主に泥の堆積した遠浅の海岸が干潟です。



干潟と浅瀬

干潟は、満潮時には海水に覆(おお)われ、干潮時は干出するという特徴をもっており、干潟はできる場所によって、下の図のように「河口干潟」、「潟湖(がたこ)干潟」、「前浜干潟」の3つのタイプに分類できます。三番瀬は、前浜干潟に属し、江戸川より持ち込まれた砂や泥が潮流に運ばれてできました。

東京湾には他にも木更津市の盤洲干潟があり、昔は、東京・品川沖から千葉県・富津沖まで干潟がつながっていました。



(出典 栗原康「干潟は生きている」より)

また、「浅瀬」とは干潟に続く水深5mよりも浅い海域で、いつも海水に覆われています。

三番瀬のはたらき

三番瀬は陸に接し、たくさんの生物が生活しています。

調査の結果、次のようなはたらきをしていることがわかってきました。

ア) 多くの生き物がたくさん生活している。

貝、カニ、エビ、ゴカイ、魚類などたくさんの生物が住んでいます。

イ) 古くから漁業や潮干狩りなど人により利用されている。

貝や魚を捕ったり、海苔を養殖したり、古くから人は食料を得ています。

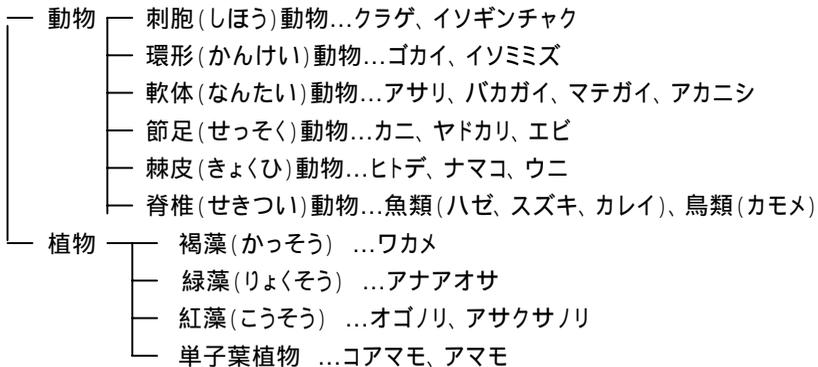
- ウ) 渡り鳥の休息、越冬、繁殖の場として利用されている。
波が静かで、たくさんの生き物がいるので、1年中様々な鳥がやってきます。
- エ) 水をきれいにする。

三番瀬は13万人分の下水処理場と同じはたらきをしています。

3 生き物と生態系

三番瀬の生き物

三番瀬ではたくさんの生き物を見ることができます。三番瀬で確認された主な生き物を系統的に分類するとは次のとおりです。このほかにプランクトンがいます。



砂や泥の中の生き物(底生生物)たち

三番瀬の生き物の多数を占めるのがアサリやゴカイなどの底生生物です。

- ア) 砂や泥に隠れて敵から身を守ることができる。
- イ) 温度の変化や水温の上昇に伴う酸素不足から身を守ることができる。
- ウ) 上層の水より、砂や泥の中の方が塩分濃度が安定している。
などの理由から、砂や泥の中で生活しています。



ゴカイ



バカガイ



クロガネイソギンチャク

鳥類

三番瀬はえさが豊富なため、たくさんの渡り鳥がやってきます。鳥は潮の干満に応じて移動し、えさを取ったり、休息したりしています。

季節ごとの特徴は、次のとおりです。

春...シギ・チドリ類が南から北へ渡りの途中に三番瀬で休憩します。

夏...コアジサシが繁殖(卵を産む)し、アジサシもやってきます。

秋...春に北に渡った鳥が南へ渡る途中に立ち寄ります。

冬...ガン・カモ類が越冬するためやってきます。特にスズガモが多く、その数は、十萬羽近くになることがあります。

また、カウウヤカモメ類はほぼ一年中見ることができます。



ミヤコドリ



生態系と食物連鎖

「生態系」とは、ある地域における「食物連鎖(右図のとおり、生物間の食う-食われるの関係)」などの生物間の相互の関係と、生物と無機的环境(大気、水、土壌、光など)の間の相互の関係を総合的にとらえた生物社会のまとまりをいいます。

三番瀬の生態系は、植物プランクトン・海藻などの生産者、生産者を食べる動物プランクトンなどを1次消費者、さらに1次消費者を食べる魚や鳥などの2次(高次)消費者とつながり、また、これらの老廃物(デトリタス)を分解する分解者(バクテリアやゴカイ)で構成されています。



4 水質と富栄養化

水質

三番瀬は、陸から大きな影響を受けています。その一つが、川などを通じたもたらされる汚れ(有機物やチッソやリンなどの栄養塩)です。

船橋市では毎月海域の水質調査を実施しています。平成15年度における海の水の汚れ具合を示すCOD(化学的酸素要求量)は右図のとおりで、陸に近い地点ほど汚れています。

また、東京湾に流入する海老川や真間川の汚れは下水道の整備により徐々にきれいになってはいますが、十分ではありません。



富栄養化と赤潮

東京湾の水には、植物の栄養となるチッソやリンがたくさん溶け込んでいます。

富栄養状態では、春から夏にかけて、気温が上がり、日照時間が長くなると、海水中の植物プランクトンが大増殖します。このとき、海の色が赤や茶色に濁ることから、「赤潮」と呼んでいます。

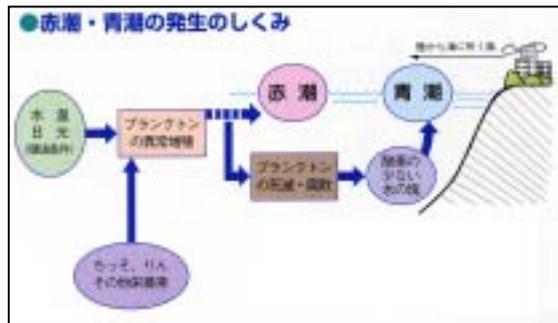
大量発生したプランクトンは干潟のろ過生物(二枚貝など)に取り込まれますが、多くは死んで浚渫跡地などの深みに沈み、バクテリアにより分解されます。

この時、酸素が消費され、深みでは水の交換が行われにくいので、海底では酸素がない状態(貧酸素水塊)を形成します。

青潮

夏から秋にかけて北風が連続して吹くと表層の水が沖に流され、代わりに底層の貧酸素水塊が湧き上がります。表層に出た貧酸素水塊中の硫化水素が表層水や空気中の酸素を取り入れ、硫黄となって析出し、海水が乳青色となります。

これが青潮です。貧酸素水塊がくると底層生物は逃げることができないので死んでしまいます。



5 人間とのかかわり

漁業

三番瀬は古くから私たちの生活と深く関わってきました。特に、漁業は江戸時代から栄えてきました。

アサリ・バカガイなどの「採貝漁」、冬場の「海苔養殖漁業」、カレイなどの「底引き網漁業」「刺網漁業」、スズキなどの「小型まき網漁業」により、三番瀬の恵みを私たちは享受してきました。

また、三番瀬はカレイやスズキなどの稚魚を育む魚類のゆりかごでもあります。

しかしながら、埋め立てによる潮流の変化や藻場の喪失、干潟の減少などにより漁獲高は減少傾向にあります。

賢明な利用(ワイズユース)とラムサール条約

今、三番瀬に代表される干潟の持つたらしきが見直され、大切に守っていかうという動きが高まっています。

そのキーワードが「ワイズユース」です。ワイズユースとは、生物多様性を確保しながら、私たちが湿地を持続的に利用することであり、また、持続的な利用とは、将来の世代も私たちと同じように湿地の恵みを享受できるように、現在を生きる私たちが湿地を大切にしながら利用し、未来に引継ぐことです。

このような湿地を国際的に保全するのが「ラムサール条約」です。

日本は昭和 55 年に締約国となり、次のようなことが求められています。

- ア) 国際的に重要な湿地をラムサール条約リストに登録指定すること。
- イ) 住民参加の下に管理計画を策定・実施すること。
- ウ) 過剰利用とならないよう規制すること。
- エ) 機能と価値を失ってきている湿地につきその復元を図ること。

また、千葉県は、平成 13 年 9 月に、埋立計画を白紙撤回し、平成 14 年 1 月に三番瀬再生計画検討会議(通称三番瀬円卓会議)を発足させました。県民・行政・専門家が協力して、三番瀬の保全について検討を始め、平成 16 年 1 月に 2 年間の集大成として「三番瀬再生計画案」を発表しました。

保全に向けて

三番瀬の保全を考える上で重要なことは何でしょうか？

三番瀬と古くから関わってきた私たちにできることは何でしょうか？

それは、三番瀬を正しく理解し、保全のために私たちに何ができるか考えることから始まると思います。

東京湾に残された豊かな自然「三番瀬」を次世代に引き継いで行くため、わたしたちは「船橋三番瀬クリーンアップ」をはじめました。

三番瀬の四季

春 (4月～5月)



オオソリハシシギやメダイチドリが海の面から春を運んで来ます。色とりどりのシギやチドリの仲間がたくさん現れます。三番瀬で春を過ごしたカモの一部、美しく衣替えをしたハマシギやダイゼンも見られます。大瀬の干潟時の干潟を歩くと、ゴカイのふん、カニなどが現れ、干潟を少し歩くとアサリやシオフキなどがたくさん採れます。干潟の豊かさを実感できます。

秋 (8月～10月)



シベリアなどで暮らしたシギチドリのはやみアジサシが、夏の国で冬を過ごすために1ヶ月ほど立ち寄りします。三番瀬の海苔などで繁殖を助けたコアジサシも産卵します。サキやウミネコもたくさんやって来ます。そしてここで冬を過ごすカモの仲間やハマシギなども観察できます。秋が深まると、鳥類は寒があまり引かなくなりませんが、海苔のアササの下などを見ると、たくさんのお客が観察できます。

夏 (6月～7月)



シギやチドリの多くが繁殖地に揃って、干潟には鳥が少なくなりませんが、周辺のアサ原や草地の中では、オオヨシキリやセッカ、ヒバリなどが雛を育てます。コアジサシが海苔にダイビングして餌をとる姿も観察できます。干潟の生き物の観察には最高の季節です。ハゼの稚魚やドカリなど、たくさん生き物に会えます。

冬 (11月～3月)



1年のうちで水鳥の数が一番増える季節です。10万羽のスズガモをはじめとして、オナガガモ・ヒドリガモ・オオシロガモなどのカモ類、ハマシギの大群、コリカモメなどのカモメ類がいつでも見られます。干潟の生き物の観察には不向きになりますが、干潟を歩けば同などの観察はできます。なお1年中、筑波に落ちているイボキサゴやウミネナ、アカニシなどの両棲の採集ができます。

(出典「東京湾三番瀬リーフレット」より)



コアジサシ



キョウジョシギ



オオヨシキリ

三番瀬への行き方

三番瀬へはふなばし三番瀬海浜公園が便利です。JR 京葉線二俣新町駅下車徒歩25分。JR 船橋駅下車京成バスふなばし三番瀬海浜公園行25分。

あとがき

この冊子は三番瀬について多くの方に知っていただくため、イラスト、資料、写真などを引用しています。これらは、様々な方から提供されました。厚く御礼申し上げます。

発行日 平成16年10月
 発行 船橋三番瀬クリーンアップ実行委員会
 編集 事務局(船橋市環境保全課)
 住所 船橋市湊町 2-10-25
 電話 047-436-2450
 この冊子は再生紙を使用しています。